

メッセージアウトライン

ヤコブの手紙 3:13~18「上からの知恵」

[13]「あなたがたのうちで、知恵のある、賢い人はだれでしょうか。その人は、その知恵にふさわしい柔和な行いを、良い生き方によって示しなさい」

「知恵のある、賢い人」とは教師とか専門的知識を持つ者の別の表現。その人は良い生き方によって、その実を示す必要がある。その実とは「その知恵にふさわしい柔和な行い」のこと。

この知恵とは霊的な知恵のことであり、神を恐れ、神に聞き従うことから始まる人生に対する正しい洞察力のこと。このような知恵を持つ者はその人生を柔和な行いという実で満たす。

柔和とは軟弱とか優柔不断ということではない。イエス・キリストの生涯を見る時にそれがわかる。主イエスの、叫ばず、争わず、しかし十字架の死に向かって敢然として進まれたそのお姿に真の柔和さと強さを見る。それゆえ、柔和な行いという実を日々の生活を通して示している人こそ本当に知恵のある賢い人なのである。しかしこのことは教師だけではなく、すべての信仰者が心がけなければならないことである。

[14]「しかし、あなたがたの心の中に、苦いねたみと敵対心があるならば、誇ってはいけません。真理に逆らって偽ることになります」

自分は知恵があると思っても、心の中に苦いねたみと敵対心があるならば誇ることはできない。それはこの世や隣人に対する態度においても同様であり、それは真理に逆らって偽ることになる。なぜなら、ここでヤコブが教えている知恵は真理にもとづくものであり、それは柔和さや謙遜を生み出すが、敵対心を生み出すことはないからである。ここでの真理とは神のことば、福音のこと。→ヨハネ 17:17,19、ガラテヤ 2:5,14

ねたみや怒り、敵対心に対する聖書の警告→ 詩篇 37:1~9、箴言 20:22

[15-16]「そのような知恵は、上から来たものではなく、地に属し、肉に属し、悪霊に属するものです。ねたみや敵対心のあるところには、秩序の乱れや、あらゆる邪悪な行いがあるからです」

ねたみや敵対心を持つからこそ人間は競い合い、向上していくのだと考える人がいる。しかし、そのような考え、そのような知恵は全く罪ある人間の肉的な発想であり、悪霊に属するものだと言われている。人間の知恵は真の神を認めることのない知恵であり、罪の影響を受けている。この世界をよく観察してみるならば、そこに創造者なる神の存在を認めることができるはずなのに、人間はそれを認めようとはしない。→ローマ 1:20~25

また人間の知恵は神が喜ばれるような状況を作り出すのではなく、悪霊に奉仕する結果をしばしば生み出す。→Iコリント 10:19~20

人間の知恵、肉の知恵、悪霊に属する知恵から、ねたみや敵対心が出て来る。そして、それらの行き着く所は輝かしいユートピアや人類の進歩と調和などというのではなく、秩序の崩壊であり、あらゆる邪悪な行いなのである。

[17]「しかし、上からの知恵は、第一に純真であり、次に平和、寛容、温順であ

り、また、あわれみと良い実とに満ち、えこひいきがなく、見せかけのないものです」

ここには上からの知恵について八つの特質があげられている。①純真…神に心を探られても何らやましいところがなく、邪悪、自己中心でない清く純粋な状態。②平和…神との間、人間との間の正しい関係。③寛容…思いやり、思慮深いという意味。④温順…喜んで聞き、喜んで説得され、賢く対応する。そのような性質。⑤あわれみ…不当な苦しみや自らの過失によって苦しんでいる者に対する同情。⑥良い実…この場合は苦しんでいる者に対する実際的な助け。行動のこと。⑦えこひいきがなく…かたより見ないということ。⑧見せかけのない…うわべだけのごまかしではない。演技ではないという意味。

これらはすべて人となってこの世に来られたイエス・キリストのうちに見られるものである。それゆえ、私たちはこの私たちの主イエス・キリストを模範とし、見上げつつ上よりの知恵を祈り求め、この知恵の源であり、与え主である主とともに歩む者とならなければならない。これは教師、牧師だけではなく、すべての信徒においても同様である。

[18]「義の実を結ばせる種は、平和をつくる人によって平和のうちに蒔かれます」

今まで見てきたように、上からの知恵によって行動する者は平和をつくりだす。また、そのような人によって義の実を結ばせる種がこの世界に蒔かれていくのである。人はその行いという実によって見分けられるのであるから、義の実を結ばせる種を蒔く者はいかにその信仰にふさわしい行いをしているかということがわかる。

私たちは苦いねたみや敵対心からではなく、上からの知恵、神からの知恵を豊かにいただいて、争いではなく、平和をつくり出す者、また、柔和な行いをその良い生き方によって示し、義の実を結ぶ者となっていかなければならない。私たちは、だれにでも惜しげなく、とがめることなくお与えになる神に知恵を願い求める者となっていくことが大切である。→ヤコブ 1:5